

様式 4

<p style="text-align: center;">令和 4 年度第 1 回 富士見市いじめ問題対策連絡協議会 議事録</p>						
日 時	令和 4 年 1 1 月 2 日 (水)		開会	午後 3 時 1 0 分		
			閉会	午後 4 時 1 0 分		
場 所	市民総合体育館 3 階 視聴覚ホール					
出 席 者	委 員	佐賀委員	本木委員	堀川委員	寺島委員	酒井委員
		○	○	欠	○	欠
		林委員	細野委員	高橋委員	古寺委員	松田委員
		○	欠	○	○	欠
		大原委員	藤野委員	小林委員	鈴木委員	小日向委員
		○	欠	○	○	○
	事 務 局	子育て支援課長、学校教育課長、子育て支援課副課長、 子育て支援課主査、子育て支援課主任				
公 開 ・ 非 公 開	公開（傍聴者なし）					
議 題	1 開 会 子育て支援課長 2 あいさつ 3 委員自己紹介 4 会長・副会長の選出 5 会長あいさつ 6 意見交換 7 閉 会					

議 事 内 容

- 1 開 会 子育て支援課長
- 2 あいさつ 子ども未来部長
- 3 委員自己紹介
- 4 会長・副会長の選出
会 長 大原 和子委員
副会長 高橋 千代子委員
- 5 会長あいさつ
- 6 意見交換（いじめ防止対策推進事業に係る講演会を踏まえ）

【会 長】本日の協議会につきましては、先ほどご講演いただいた森田講師にも参加いただいております。意見交換会を始めるにあたり、森田講師から講演会の補足など何かございましたら、お願いします。

【講 師】私たちが感覚として持っているいじめには法律とのギャップがあり、いじめ防止対策に取り組んでいるにもかかわらず、いじめの発見が遅くなることに繋がっていると感じています。学校現場は全力を尽くしていじめ問題に取り組んでいますが、取りこぼしてしまった事がこじれて重大事態になってしまうことが少なくないように思います。

いじめがどうしてなくなるかについて、色々考えたりしますが、それがわかればいじめがなくなると思います。

基本的に人間の心理として、人をいじめてしまう、いじめたいという心理は存在します。専門的な者が理解をしつつ、その心理以外の環境の部分で何か取り組めないかと考えた時に、まずいじめに対する感覚というものを植えつけさせないような、小さい頃からの関わりで、基本的には家庭がすごく大事になり、学校だけでなく親同士の話し合いなど、育つ環境の中で私たちが何かできる事を学校現場だけではなくて、家庭の中、地域の中で拾っていったらいいと思っています。

【会 長】先ほどの講演会のお話や今の森田講師からのお話につきまして、感想や講師にお聞きになりたいことなど何でも構いませんので、ご意見をいただきたいと思います。

【委 員】いじめられている子どもへの対応について、非常に多くの事を学ぶことができました。

改めて、いじめに対して思い込みで対応することが多く、子どもの色々なことに対する進歩が速すぎて、それに追いつけないからどうしても後手に回ってしまうと感じました。

最近では、ネット上の人間関係のトラブルが多く、SNSは即時性が便利な一方で、すぐに対応しなきゃいけないことが、トラブルの一つの要因と感じています。今さら、子どもから取り上げることは無理なことですが、

メディアで取り上げてもらえれば、良い方向に動き出すのではないかと思います。

【委員】子どもたちが主体的に解決する力を育てましょうと事務局よりしっかりお話をいただいたこと、市をあげて、学校だけでなく地域もいじめの協議会も含めて子どもたちをいじめから救ってほしいというのが、素晴らしいと思いました。

講演会の中で、いじめの定義について取り上げていただいたことは、今日の講演は本当に意味があるなと思いました。また、いつも同じ声掛けをすることでいつもとの違いに気づけるというお話がありましたが、これは本当に大切だと思います。何かできるわけじゃなくて気づくだけで大事であると価値づけていただいたことは、すごく印象に残っています。

子どもにとっていじめ防止サポーターはどんな存在でどのように関わることができるのか、子どもたちが知っているのかで大きく変わってくると思うので、周知いただければと思います。

子どもは、担任の先生が一番の相談者になると思っていますが、担任の先生が忙しいことや、周りに他の子どもたちがいると相談できない状況がありますので、相談ができる場所、困ったことや辛いことを言える場所を知っているということが大事になると思います。

【事務局】例年、いじめの相談窓口を記載したポケットティッシュを作成し、市内小・中・特別支援学校の児童生徒に配布しています。また、いじめ防止サポーターに協力いただき、事業所や団体の活動場所にて、配布いただいています。

【委員】講演会は参加できなくて申し訳ありませんでした。主婦であり母である私の意見としては、家庭教育が一番大事なのかなと思っています。家庭の中で他人と比べることもありますが、差別と区別は違うということをお子には教えてきました。

P T Aがだんだん希薄になってきていますが、お母さんたちが悩みも相談できる場所でもあったのかなと思います。いじめ防止対策について、市にも頑張ってもらいたいですが、父母や地域などでも活動していけたらいいと思っています。

【委員】講演の中で「いつも同じ声かけをすることでいつもとの違いに気づく。」「ひたすら聞いてあげる。」というお話がありましたが、私も努力をしているところです。実際に、いつもとの違いがわかる子や話しをしてくれる子もいたことから、講演を聞きながら自分のやっていることを思い出しながら、聞いていました。

【委員】講演会の中で、話しをしてくれた時のNGな言葉をご紹介いただきましたが、実際に使ってしまったこともあり、気をつけないといけないなと思いました。子どもが話してくるタイミングで、話を聴くことが親ができることで、とても大事なことだと思います。

今は何かあれば携帯を見るという約束で子どもに携帯を持たせていますが、ずっと大人になっても見るわけにはいきませんし、今後の管理について、どうしようかなと思っています。子どもを信頼していますが本人だけではどうしようもない問題も出てきますし、その時に子どもが親を信用

していないと話をしてくれないと思いますので、しっかりとした信頼関係を築いていきたいと改めて確認させていただき講演会となりました。

【委員】さまざまな事例を通して講演いただき、私自身、子どもとの関わり方を見直すきっかけを作ってくださいました。

3点ありまして、1つ目はメディアについてですが、メディアには良い影響も、悪い影響もあります。出演者同士でふざけたことをやってそれを笑い合っただけ許してしまうような番組がありますが、その内容に子どもが関心を持つことがあります。昔バタフライナイフを持ったドラマが流行った時に、一気に中高校生がバタフライナイフを持つようになり、それが大きな事件に繋がった事件がありました。メディアの影響は非常に大きいので、日本全体で考えていかなければいけないと思っています。

2つ目は、保護者や教員の子どもの関わり方です。子どもの話をその場で聴けないタイミングってありますが、子どもがせっかく話しや訴えようとしていた場面を失うきっかけを作っています。「ちょっと待って」、「あとにして」、それで許される場合と許されない場合があり、そういうことの積み重ねによって子どもと大人との信頼関係が築かれていきます。大人の都合で子どもをコントロールしているとなかなか信頼関係は築かれていかないと感じております。

3つ目は、過去にお世話になった方が、子の父母に対し、子どもが真似をするので、先生や友達、あるいは近所の方の悪口や優劣をつけるようなことは子どもの前で絶対言わないよう話していました。やはりそこが関係づくりの原点なのかなと思いました。取り巻く環境や、大人との関係づくり、そういう部分も考えていかなければいけないと思います。

平成24年の大津市で起こった事件により、国が動き始めて、いじめ防止対策推進法を制定し、各市町村や国がいじめ防止について考えようということになりました。最近も殺人事件があり、子どもたちの命を無くす大きな事件に繋がっていて、改めて厳格に考えていかなければいけないと思っています。本市は保護者、様々な方の協力、関係団体の力添えがあって大きないじめの事件はありませんが、やはりいつ起きてもおかしくないもので、常にアンテナを高くして取り組んでいますので、ささいなことでも、気になることがあれば、相談いただければと思います。

【委員】いじめはなぜなくなるのかと考えてみたのですが、いじめの定義をいじめと認識しないと無くなりづらく、常に大人も子どもも当たり前のように認識できるよう啓発活動が必要であると思いました。

学校教育だけでなく家庭でもよく話を聞くことやNGワードを改めて教えていただきましたので、それに触れないように傾聴のスキルが大事になると感じました。

【委員】それぞれの立場で活動されている中、あるいは日常の中で感じたことについての意見をいただいたことにつきまして、貴重な意見として、今後の活動の中で生かしたいと思っておりますし、皆さんと協力しながらいじめ防止に取り組んでいければと思っております。

近所の就学前の子に挨拶をすると返してくれていましたが、その子が小学校に上がると、少し恥ずかしいのか、返してくれなくなりました。講演の中でお話いただいたとおり、声をかけ続けると、何かサインがつかめることもありますので、これからも声がけを続けていきたいと思っております。

【委員】学校では定期的なアンケートがとても大事であると感じています。いじめなどは、なかなか見えないことがあり、個人の発する言葉をどう捉えるかが重要であります。また、幼児教育において、家庭ではお母さん方は一生懸命にやられています、できれば幼児教育に対し、行政がもう少し介入していただけたら有難いなと思っています。それから、地域の一員として、ちょっとした応援でもできればいいのかなという気持ちでいます。

【会長】決まった子たちから嫌がらせをされた女子高校生の話をテレビで見たのですが、その子は何か物を落とされたら拾うなどひょうひょうとしていて、どこにそういう力があるのか不思議でした。その子は、「いつもお母さんが自分のことを見て、自分のことを考えてくれていて、私のことを信頼してくれているから、私は何があっても大丈夫」と話していました。

お母さんは忙しく、なかなかいつも声かけはできないかもしれないけれど、「お母さん」と言われた時に、急ぎの用をしていたとしても、手を止めてまず顔を見て、「今これやっているからちょっと待っててくれる」と、少し知恵を出して声かけすれば、子どもはちょっと待ってれば良いと思いい、自分はこの家に生まれてきて良かったなという気持ちが醸成されると思います。

本日の講演会及び本協議会の話をも自分の成長のために生かしていきたいと思っています。

【講師】いじめ防止サポーターの存在を、子どもたちはご存じですか。

【事務局】特別に子ども向けには周知はしていませんが、コンビニなどの事業所や、放課後児童クラブや児童館などの子どもたちが集まるところに、いじめ防止サポーターになっていただいている、ポスターやステッカーの掲示だけでなく、見守り・声かけをしていただいていますので、存在は把握していると思います。

【委員】子どもたちにしっかり周知した方が良いと思います。

【委員】子ども110番は、子どもたちの中で定着していますので、いじめサポーターも良い取組なので、同じように定着してほしいと思います。

【委員】子ども110番の三角旗は、常時誰かが家に居るという条件で配布しており、最近では核家族化や共働きが増えていることや、高齢を理由に辞退する方もいて、減っています。

いじめ防止サポーターが地域に根付くには、何人かいじめ防止サポーターの事業所を、相談場所として委託すると良いのかなと思います。

【事務局】いじめの相談となると、専門的なことが必要であったりしますので、いじめ防止サポーターには日ごろから見守り・声かけをしていただき、ポスター等でいじめ防止をPRしていただくとともに、従業員の家庭の中で話題にしていただくことを、今後も続けていきます。子どもたちに対する周知は行っていきたいと思っています。

【講 師】皆さんの話を伺いながら私も何を考えるべきかなと、考えるきっかけにさせていただきました。

いじめを起こさない、起きてしまった子どもを助けるためにはという話をさせていただきましたが、やはり、いじめを少しでも起きにくくするために、関われることに力を入れていけたらいいと改めて思いました。子どもが話しかけてくるタイミングにうまく応えることは、会話だけではなく、心のやりとりもそうだと思いますが、そのタイミングに応えられることで、いじめられる子がいじめられていると伝えられることになるとともに、いじめてしまう子も作らないことができるのではないかなと感じています。いじめられる子のケアばかりが先行していますけれども、いじめられる子のケアって非常に大事であり、自分の中での葛藤や、満足できない事、ストレスが背景にあって、人として良くないことに手を出してしまうということがあるので、それを考えた時にやはり信頼できる関係、親子関係とをはみ出さないようにできるよう、講演会や研修等で広げていけたらいいなと思いました。

【会 長】どうもありがとうございました。いじめられる子のケアというのが大切だなと思いました。

それでは本日の議事は以上となります。ご協力ありがとうございました。

7 事務連絡

次回の会議日程は未定

8 閉 会 副会長